

発行責任者
中野大八郎
横浜市磯子区磯子台24-3
〒235 TEL 045-761-2154



都島だより
KANTO NANIWA KOGYOKAI
NEWS
11 関東浪速工業会
会報

投稿送り先
石川 芳夫
〒265 千葉市若葉区中田町1193-13
TEL 043-228-2102

平成6年度を顧みて

会長 中野大八郎 (M16)

会長を引受けて十ヶ月あまり経ち、残す行事は総会のみとなりましたので、この一年を振り返ってみたいと思います。
昨年のような天変地異こそありませんでしたが、記録破りの猛暑で、四国や北九州では十月に入っても極端な水不足の有様です。円高も、よもやの百円割れと、まだ続く不況のダブルパンチを受けて、大多数の会員諸兄は企業生残りに懸命の努力を費しておられることと推察します。

このような世相であります、当会の行事を左記の通り消化出来たことは、偏に幹事の献身的な協力と、会員のご理解によるものと感謝しております。

- 幹事会
一月、四月、六月、九月、十一月の五回(毎回十〜十五名)
- 幹事慰労会
三月十一日(金) 熱海・ホテルニュー稲元にて十二名が出席。

○見学会
六月十八日(土) 両国の江戸東京博物館を参観、十五名が参加。後、館内レストランにて懇話の一と刻を過ぎました。

○観劇会
九月十八日(日) 帝国劇場にて金田龍之介氏出演のマイ・フェアレディを、三十名が愉しみました。幕間に楽屋を訪れ花束贈呈の上、しばらく歓談しました。

○ゴルフ・コンペ
十月二十日(木) 紫カントリークラブで開催の予定(参加者・成績などは次号で発表します)の他に今年に限っての特別の行事として、浪速工業会が社団法人に認可されて六十周年を

迎える記念総会が、五月三十日に大阪のホテルで開催されました。当会の代表として会長が出席し、懇親会の席上にて祝辞を述べて来ました。尚、本部ではこれを機会に最近の「十年のあゆみ」という立派な本を上梓しましたが、関東支部の「あゆみ」を笹本克巳氏(E13)に執筆の依頼をし、うまく纏めて頂きました。又、五月の内閣改造で、近江巳記氏が科学技術庁長官に就任されたので、六月十四日に、会長・副会長及び当番幹事の橋本・石川両氏の四名が同行し、長官室に表敬訪問、記念品を贈りました。生憎、当日は参院の予算委員会であり、長官とは国会内で一言だけの挨拶に終わったのは残念でした。
以上が平成六年度の経過の報告で、来る十一月十八日(金)の総会を盛会裡に終らせることが、現幹事会としての最後の勤めになりました。十一月四日に具体的な打合せを行います。今年度の新卒生には会費を無料にすることは既に決定しております。会社等で該当の人が居られるようでしたら是非お誘いの上、一名でも多くの出席を心から願っております。

ウラジオストックでの海外赴任を終えて

石垣英明 (36歳卒)

日ロ合併会社として、ロシア連邦のウラジオストックに初めて設立された国際電気通信会社(ボストークテレコム)に、約二年間出向し本年九月に帰任しました。ウラジオストックは極東ロシアにおける最大の軍港(太平洋艦隊の基地)であったために、旧ソ連邦が解体に至る一九九一年十一月まで、外国人に対し門戸が閉ざされていた町でした。このウラジオストック

に私たちが合併会社を設立できたのは、ペレストロイカにより共産主義の国から市場経済主義の国へ体制が改革される大きなうねりに呼応して合併交渉が進められたこと、改革によりロシアの社会が急激に改善されるのではないかと投資に対するリスクをやわらげる大きな期待感があつたからです。今ではロシアでの外国資本に対する投資環境が悪化したような合併会社を作ろうとは誰も思いつかないことでしょう。合併会社のロシア側パートナーは資金がだせないために土地及び建物などを現物出資、日本側が出資金をだすという形態で資本金12億6千万円の会社を設立しました。会社は国際電気通信サービスにより事業展開を図り、極東ロシアにおける国際通信の疎通改善を行うことが合併会社設立の目的でありました。一九九三年一月十五日に営業開始し、ほぼ順調に事業が拡大でき、現在では年間三億円の売上が期待できる会社に成長しました。社員はロシア人61名と日本人3名です。私は、会社設立と同時に現地に赴任し、約二年にわたって建設工事、営業開始、事業運営に係わる仕事に従事しました。極寒の大地でロシア人と衝突を繰り返しながら三ヶ月の短期間で突貫工事をを行い、一九九三年の正月明けに通信衛星を介して日本との国際電話が繋がったときの感激は一生忘れられないでしょう。そして、単身赴任生活にも慣れ、ロシア人とのわかちあひも薄れ、ロシアの国、ロシア人が好きになった頃に日本へ帰国することとなり、ロシア人から感謝の言葉を聞いたとき、なぜか涙ぐんでしまいました。競合他社との通信戦争が始まった段階から、建設工事をスタートしたので、一刻でも早く、営業開始をしな

ければお客様に囲み込みができないというプレッシャーのなかで工事を進め、とにかく会社設立して六ヶ月で営業開始にこぎつけたのは奇跡としかいようがなかった。日露合併会社で仕事をすることは、ロシア側だけでなく日本の親会社とも常に調整しながら事業展開を図らなければならぬために、お互いに利害関係が異なることから無用な軋轢が生じ、非常にやりにくい欠点もあり、ボストークテレコムという会社に自分だけがめり込むほど、どうして自分だけがシベリアの地でこんな苦勞を背負い込まなければならぬのか、ロシアの会社のためにやっていると納得してしまえぬのかと気分が落ち込んだときもありました。しかしそういう苦勞があればこそ感激も生まれるものであり、今にして思えば充実した日々を過ごさることができ、貴重な体験をさせてもらったことを感謝しております。ウラジオストックは、新潟から飛行機で一時間半で行けます。商業港をもつ坂の多い日本海に面した町で、日本から見れば、最も近い距離にある白人の社会です。人口は約70万人で極東ロシアではもっとも大きな都市ですが、日本人の数は一〇〇人足らずです。長いこと鎖国状態であったため外国人の数も少なく、ロシア語も満足に話せない自分が休日には町中を一人で歩いていると、よくもまあこんな場所一人で生活できるものだな、自分というのはいずれも順応性があるのだなとひとりで感じたりしておりました。電気は停電する、水は断水する、お湯は給湯されない、治安が悪くて夜間は出歩けない、今の日本の生活では信じられない生活環境のなかで日々ハブニングの連続で、果たしてこんな場所、自分が

生きていけるのかと心配もしましたが、二年経つと、住めば都で日本よりもウラジオストックの生活が好きになり、また機会があれば出かけていきたいと思うようになった。海外での長期滞在は初めてでしたが、心配するほどのことはなく無事、日本に帰ることができました。ロシア人というのは赴任するまではなんとなく好きになれなかった外国人でした。極東ロシアのほんの一部をかいました二年間でしたが、自分一人で生きていけないことを学び、いろいろなロシア人にお世話に預かった体験を経ると、今ではすっかりロシアびいきになり、定年後はロシアで生活してもいいかなと思えるのは不思議なことではないかと。この体験を糧にして残された人生を有意義に過ごしていきたいと存じます。 以上

懇親会一泊旅行記

E13 笹本克巳

恒例となった自由参加の行事として、二、三月頃に新旧当番科の幹事と有志の会員で近くの温泉へ一泊して(費用自己負担)いる。前年度の反省と今年度の事業計画、運営などを話し合い、団らんの一泊を過ごしております。今年も三月十一日(金) 熱海温泉、ホテルニュー稲元に行きました。夕方現地着で、一風呂浴びて宴会に入り、カラオケ大会へと発展した。時代を感じさせる古来のナツメロや若い幹事の現在の歌など大変な盛り上がりで、ホテルから「時間ですよ」と云われるまで大いに発散した。毎年春に催しますので、希望者は、各幹事まで案内通知の依頼を申し入れして下さい。
出席者 C 太田、榎本 A 西口、E 笹本 CH 柴田 M 福生、中野、横山、小川、岡野、上田、橋本さんの以上十二名。

「酒田市って何県なの？」

(CH32) 佐々江延宜



書き出しから変なことを書きますが、このタイトルの言葉を何回聞かされたことか、それは小生が酒田市へ転勤になることが決まってから普通の人からは勿論のこと各種手続きのため訪ずれた官公庁又はそれに準ずる場所でもよくこの質問を受けながら「山形県」と答えること「あつあのサクランボの」と十中八九山形県IIサクランボなのである。又ある人は「新幹線の山形からどれ位のところ？」と聞いてくる。これ又山形県II山形新幹線の連想である。いずれも「酒田」はどこかへ行ってしまうている光景である。「酒田市」の名譽のためにせめて位置関係だけでも記しておきたい。「酒田市」は山形県でも日本海に面し若干北寄り(秋田県寄り)に位置する人口は十万人余の町で、昔は北海道と京の都を結ぶ輸送船「北前船」の交通の要所として商人町として栄えた町で、広大な穀倉地帯である庄内平野を控えお米は勿論のこと海の幸、山の幸も豊富で豊かな町なのである。たゞ前述の「サクランボ」はもつと内陸の地である阿寒江市が中心で庄内平野の産物ではない。又新幹線の終点で、これも酒田市とは快速電車で約二時間はかかる位置関係にある。飛行場も庄内空港まで約三十分で、

まだ便 数は少ないが東京羽田まで一時間、大阪伊丹まで一時間十分と非常に便利になっている。現在、小生は新しい段ボール工場の建設のため忙しい毎日を送っていますが、車社会のためどうしても歩く機会が少く運動不足気味です。それを補うためにゴルフも積極的に行くようにしていますが、これも毎年十一月下旬から冬期クロスになるそう(オープン)は四月中旬)厳しい冬を予想しています。冬さえなければ酒田は住むのに最高と言ふ人によく出会いますが、未だ冬を経験していない小生も雪が地面から降ると言われる地吹雪に面くらうことでしょうか。またお便りします。

言葉が使われている。文化と言ふと国家とか民族を対象にしていて、日本文化となると日本古来の芸術、技術、習慣などを連想する。カルチャーはもっと広い範囲に及んでいて、物事を認識し、判断し、鑑賞し、叙述する基になる習慣や風習や伝統や教育(広い意味の)や経験などを総合した意味である。我々は昭和の初期の激動の時代に大阪の都島工業学校で同じカルチャーのもので教育を受けた。俗に都工精神を培われたのである。戦後都島工業高校になつたからは若干カルチャーは変わったかも知れないが長い伝統は同じ環境の下で育ちまされてきたと信ずる。

九月十八日(日)、正午から帝劇で上演されているミュージカル「マイ・フェア・レディ」を観ました。M21金田龍之介氏が出演するというので、例年の納涼行事の企画をこれに当てたものです。七月下旬から発売の前売券が、六月中旬C18秋月氏にお世話願って、申し込んだところ、こちらの希望日は満席という状況でした。

本会の行事に、会員の皆さんが一人でも多く参加されることをおすすめします。(M18 小川勝宏記)

見学後洋風レストランにて軽食、歓談して解散、当日は参加者17名にて稍々淋しかったですが未だ行っていない方々はご家族連れで是非一度は見学される価値があると思います。休館日は月曜日と年末年始で時間は10時~18時(金曜日のみ21時迄)(E13 笹本記)

関東浪速工業会の今昔を語る

(10号の続き) 一會を支えてきた人びと (E12) 上畑 清郎

観劇会

おわり

江戸東京博物館

見学会

お詫びと訂正

江の島の月

江の島の月

昭和63年11月には福生正勝さん(M16)が就任、機械科の関白ニユースから関東浪速工業会のMニユースへの発展、関白クラブを浪工会に開放しようなどの目新しい動きがあった。つづいて平成元年には岡田宏三さん(A28)が会長になられ組織の一体化とともに母校の建築追加募金などに尽力され、又デザイン家らしいユニークな試みを実施された。平成2年11月には再び一廻りして当番は電気科に戻り小林孝栄さん(E29)を会長に推挙した。関東青風会の要望に応えて幹事役の竹村繁幸さん(A36)達と共に多忙の中、任を全うして下さり深謝している。

さて最後に、昨年8月28日、元理事長和田正八郎さん(E13)が逝去されたが浪速工業会の発展に寄与され、関東浪速工業会にも暖かい手を差し伸べて頂いたことが忘れられない。本当に惜しい人を亡くしたと思う。合掌。

当日は、台風24号が東海上へ逸れて皇居の緑が美しさを増していました。参加者は家族、知人を含めて、E9名、C5名、CH2名、M14名の計30名でした。前評判どおりの絢爛さと、俳優の演技力の良さに、四時間ばかりと云う間に、金田龍之介氏演じるピッカリング大佐は思慮深い重厚な人物を好演し、氏の一段の円熟さを感じました。幕間に、中野会長、笹本幹事ほかで、楽屋へ花束を贈呈に行きました。

今年度の見学会は堅い処をやって、昨年両国の国技館隣に完成した東京都の「江戸東京博物館」を訪ねることとなり6月18日に実施しました。ここに東京都が巨費を投じて昨年完成したもので、先づは5・6階の常設展示室へ、お江戸日本橋を渡って入ると徳川家康が江戸に入府してから東京オリビックに至る約四百年間を中心に東京の歴史、文化を実物や複製資料、見事な復元模型などで構成展示されて居り往時を偲ばされました。我々の見学時間は2時間でしたがゆっくり説明など読み乍ら歩いたら時間が足りない位でした。

その他にも企画展示室、図書室、映像ホール、映像ライブラリー、ミュージアムショップなどもあり江戸東京の歴史を学ぶには最適の立派な設備に感心しました。見学後洋風レストランにて軽食、歓談して解散、当日は参加者17名にて稍々淋しかったですが未だ行っていない方々はご家族連れで是非一度は見学される価値があると思います。休館日は月曜日と年末年始で時間は10時~18時(金曜日のみ21時迄)(E13 笹本記)